平成２３年８月５日　金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC

今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～手足口病が流行しています④～ New
- 全数報告対象感染症発生状況（６月分） New

（調査週）　平成 23 年　　第 30 週　　７月 25 日（月）～　７月 31 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況　（奈良県上位５疾患）　（５週前からの動向）

順位	疾　患	定点当り	奈良県	北　部	中　部	南　部
1	手足口病	8.09	→～↑	→～↑	↑	→
2	ヘルパンギーナ	2.49	→～↑	→	↑	→～↓
3	感染性胃腸炎	2.14	→	→	→	↓
4	咽頭結膜熱	0.57	→～↓	↓	→～↓	→～↑
4	水　痘	0.57	↓	↓	↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

★全県で手足口病の警報レベルが継続中です。

県北部地区概況　報告数は 253 例で、前週報告の 298 例から減少。上位５疾患は、①手足口病、②ヘルパンギーナ、③感染性胃腸炎、④水痘＝伝染性紅斑の順。ヘルパンギーナの報告数（41 例）は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（30 例）も、やや増加。伝染性紅斑の報告数（11 例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（11 例）は、激減。手足口病の報告数（145 例）は、やや減少。郡山 HC 管内基幹定点からの無菌性髄膜炎の報告が、１例（1～4 歳児）あった。また、郡山 HC 管内眼科定点から、流行性角結膜炎が１例報告された。　（村井　記）

県北部外来状況：夏休みで感染症の外来患者数は減少しています。前回まで流行が拡大していた手足口病はピークを過ぎたようですが、ヘルパンギーナが増えてきました。前者は発熱期間が１日前後ですが、後者は２－３日とやや 長めです。感染性胃腸炎は細菌性のみで減少しています。伝染性紅斑の流行は持続しており、関節痛を訴える保護者の感染もよくあります。　（矢追　記）

県中部地区概況　報告数は 29 週の 238 例から、30 週は 249 例と増加した。上位の 5 疾患（29 週→30 週）は、①手足口病（121 例→118 例）、②感染性胃腸炎（28 例→44 例）、③ヘルパンギーナ（37 例→42 例）、④咽頭結膜熱（17 例→14 例）、⑤A 群溶連菌咽頭炎（8 例→7 例）、⑤水痘（15 例→7 例）、⑤伝染性紅斑（2 例→7 例）の順であった。手足口病は 29 週よりやや減少したが、5 週連続 1 位で依然として大流行している。ヘルパンギーナも流行している。インフルエンザの報告はなかった。眼科定点からは流行性角結膜炎 2 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

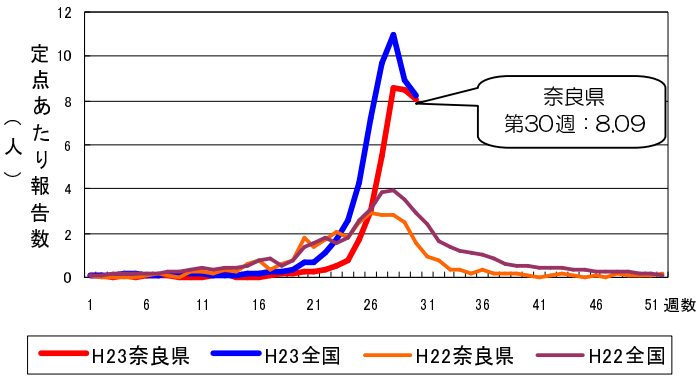
県中部外来状況：夏休みになり一気に外来数は減少。ヘルパンギーナ、アデノ様の夏風邪が主。手足口病は減少、非典型的な強い経過の手足口病も見られなくなった。感染性胃腸炎が少しずつ、他に伝染性紅斑、水痘、流行性耳下腺炎が僅か。（岡本 記）

県南部地区概況　報告数（第 29 週→第 30 週）は 41 例→38 例と推移。報告のあった疾患は①手足口病（23 例→20 例）、②咽頭結膜熱（1 例→4 例）、②ヘルパンギーナ（8 例→4 例）、④百日咳（0 例→3 例）、⑤A 群溶連菌咽頭炎（1 例→2 例）、⑤水痘（1 例→2 例）、⑤流行性角結膜炎【眼科定点】（1 例→2 例）、⑧感染性胃腸炎（3 例→1 例）。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は少ない状況が続いている。手足口病は第 29 週で急減したが第 30 週から再び増加している。口、手掌、足底の発疹は認めないか、ごく軽く、四肢の発疹も一時のような大きな水疱性のものは見られず、軽症のものが多い。発熱の翌日から発疹が出現するものも多い。ヘルパンギーナ僅か。翌日から四肢の発疹が出現し、手足口病の診断となるものもみられる。感染性胃腸炎は少ない。A 群溶連菌咽頭炎僅か。百日咳が同じ中学の 1 年生で 2 例、高校生で 1 例あった。（山本 記）

【気になる話題　～手足口病が流行しています④～】

奈良県における手足口病の報告数は、第 28 週の 8.54 をピークとして横ばいからやや減少しつつありますが、全県で警報レベルが継続しています（図、表）。流行は西日本から全国に拡大しており、第 28 週の全国の定点あたり報告数は 11.0 で、1982 年に調査を開始して以来最多の報告数です。



図．手足口病の定点あたり報告数（奈良県・全国）

表．第 30 週の定点あたり報告数（保健所・奈良県・全国）：単位（人）

保健所	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	奈良県	全国
第29週 （前週）	9.29 (8.94)	8.00 (8.10)	7.29 (7.43)	9.57 (9.86)	6.00 (6.00)	4.00 (5.50)	8.09 (8.46)	8.19 (8.89)

赤字は警報レベル（手足口病の警報開始基準値は 5.00、終息基準値は 2.00）

◆今年の手足口病に多く見られる臨床的特徴

・発症初期に高熱を発する。
・比較的発疹が大きく、手足だけでなく広範囲に認められる。
・治ってから数週間後に、爪が浮き上がってはがれ落ちることがある。

◆予防対策

・糞便から感染するので、オムツなどの排泄物を適切に処理する。
・手洗いは石けんを使って流水で十分に行い、ウイルスを除去する。
・入浴はシャワーを使い、浴槽・タオルの共用を避ける。
・治ってもしばらくはウイルスを排出するので、上記対策を継続する。

［参考］厚生労働省「手足口病に関するＱ＆Ａ　平成 22 年６月」

URL：http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html

（感染症情報センター　記）

【全数報告対象感染症発生状況（平成 23 年６月）】

平成 23 年６月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下の通りです。

６月報告患者数（平成 23 年８月１日現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	６月計
２類	結　核		5	5	7	1	2	20
３類	腸管出血性大腸菌感染症	2						2
４類	レジオネラ症		1					1
５類	アメーバ赤痢		1					1
５類	後天性免疫不全症候群			1				1

（感染症情報センター　記）